（様式１）

県立磯原郷英高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和６年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1） 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

（2） 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

学校の教育目標

〇文武不岐の理念の下、学習活動と部活動を充実させる。

〇生徒の適性や能力に応じた進路実現を図る。

〇教養・理解力・判断力・責任感・知性・品性・感情・体力忍耐力を培う。

〇地域活性化の一翼を担い、21 世紀を支える人材の育成という社会的使命を果たす。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

自らの人生と社会の未来を考える活動を通して、社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくために必要となる資質・能力、未来開拓力を育む。

総合的な探究の時間の学習評価

〇知識・技能：一般的な教養を身につけ、生涯を通して学び続ける姿勢を持つ。

〇思考力・判断力・表現力：勉学と部活動ともに熱心に活動することで、コミュニケーションをとることができる。

〇学びに向かう力、人間性等：社会に出た際に、自分はどのような立場で勤務する会社や地域社会に貢献することができるか想像することができる。

生徒の実態

全体的には明るく素朴である。学力面については、基礎が十分に身に付いていない。

部活動の活性化が生徒全体の心身の成長につながっている。学力面、生活面ともに教員のサポートを必要とする生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか

〇配慮を必要とする生徒への指導

・個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

・「合理的配慮の必要性」の理解を進め、互いの特性を認め合い、支え合う関係を築く。

目指す生徒の姿

〇知・徳・体の調和のとれた人格を身につけた人

〇新しい時代に必要な未来開拓力を身につけた人

〇生涯にわたって主体的に学び続け、地域社会やグローバル社会に貢献できる人

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

【人間関係形成・社会形成能力】

グループ学習や学校外の大人から学ぶ機会などを通して、コミュニケーション能力や他者理解力などの人間関係形成能力の育成を目指す。

【自己理解・自己管理能力】

他者と協力して探究を深めたり、各自が課題研究に取り組み、その成果を発表したりする中で、自己の役割の理解や自分で動機付けして前向きに考え行動する力など、自己理解・自己管理能力の育成を目指す。

【課題対応能力】

相互に評価し合う学習を通して、情報の選択・処理・分析力、課題発見力、問題の本質を捉えて解決策を立案する力、他の意見を踏まえて改善する力など、課題対応能力の育成を目指す。

【キャリアプランニング能力】

将来の進路選択や人生設計について考える力を高めるなど、キャリアプランニング能力の育成を目指す。

学習活動、指導方法等

〇１年次 「自分を知り、社会を知る」

自己理解を深めるとともに社会理解を進め、自分の適性を見極める。

・他者の意見を受け入れることによる、自分の考えの深化。

〇２年次 「自分と社会との関わりを考える」

社会の在り方や社会と自分とのより良い関わり方を考え、自分の進路を研究する。

・ワークシートを活用して情報収集する。収集した情報が、表現することに十分であるかを認識し、情報収集の質を確認する。

〇３年次「自己実現」

進路活動を通して、自分と向き合い自己実現に向け、自分らしい働き方を見つけながら、理想的な生き方を探究する。

・客観的な評価に基づき振り返りを促進し、自己評価の再確認も行う。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

〇指導体制

・全体計画、年間計画は教務部、進路指導部、年次担当者が連携し、校内組織「探究活動・「道徳」教育推進委員会」を中心に作成する。

・各教科の協力も得て、年次の担当者を中心に各年次団で実施する。

〇地域との連携

・活動を通して、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資産も含めて活用し、教育を学校内に閉じることなく、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる。